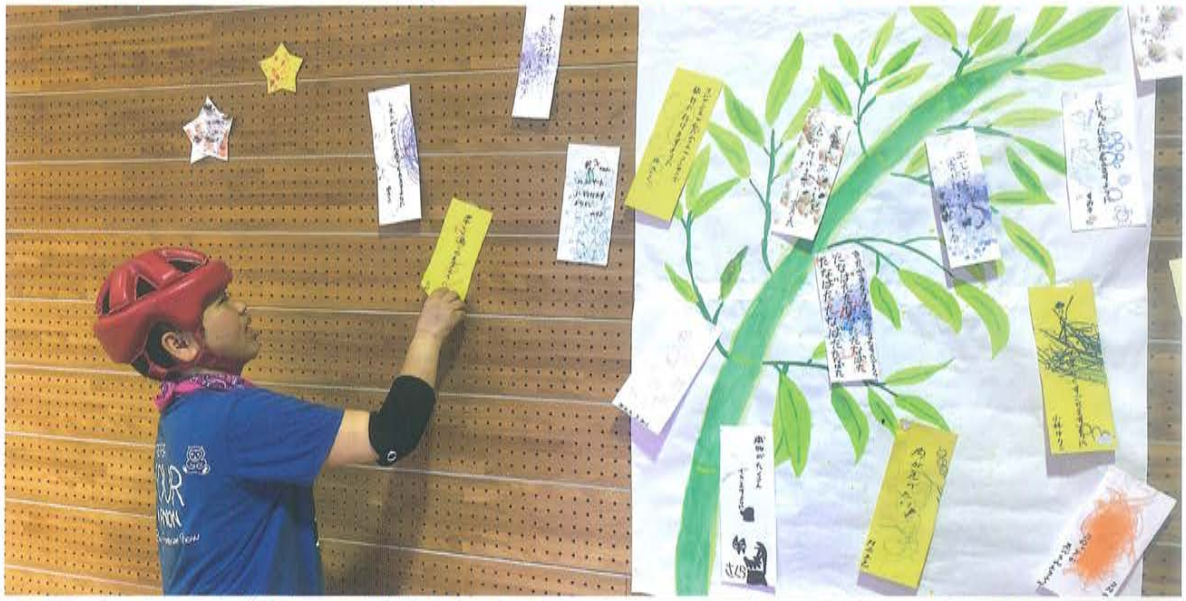
おちほ

第93号　令和2年9月25日　発行　　社会福祉法人　椎の木会　落穂寮　発行者　太田正則
TEL 0748－77－2299　FAX 0748－77－5588　http://ochiho.noor.jp/



いつもより強い願いをこめて！

今年度は新型コロナウイルスに対する感染防止の関係で、外出や帰省、寮内全体で集まる行事は行わない状態でほぼ半年が経ちました。利用者さんにおいては生活の変化や状況が分からない中ではありますが、ありがたい事に穏やかに過ごすことが出来ています。ただ、少し特別な〝お楽しみ〟さえもない状態な為、外出も出来ない利用者さんたちに少しでも楽しんでもらえたら…と職員の思いを受け、各棟ごとではありますが、七夕鑑賞会を実施しました。

多目的ホールに大きなスクリーンを出し、過去の映像等を投影したのですが、過去の自分が映るとアピールされる利用者さんや流れてくる音楽にノリノリの利用者さんなど、各々の方法で楽しまれていました。

みんなで描いた短冊への願い事も、今年は〝やりたくても出来ない〟と感じる事が多いため、例年よりも強い想いで描かれたようにも思います。

○△□のない世界へ

山下陽一

服部研究室リンク

甲南大学文学部准教授の服部正先生は落穂寮を利用していた人たちの独自な創作作品に興味をもたれ、それらの作品を調査しておられます。

落穂寮の作品は一九五〇年三月、東京・東横デパートで開催された展覧会で好評を博し、後日美術関係専門誌の「**美術手帳**（臨時増刊号・ちえのおくれた子らの作品）」として五十余点が紹介されました。これは医師で画家の式場隆三郎氏の尽力によるもので、当時主任保母をしていた初田春枝さんの指導による落穂寮の子どもたちの作品でした。当時の作品がすべて残っているわけではありませんが、石山町南郷にあった落穂寮の建物の改築時、廃材や雑書類の焼却処分を免れたものが現在まで保存されてきたものです。価値が解らないものは保存され難い、ということでしょうか。

服部先生は美術館の学芸員を経験した方ですが、障がいを持つ人たちの創作活動に興味をおもちになり、落穂寮創設初期から池谷正晴先生の指導作品まで調査をしておられます。

池谷先生は、絵画のみならず、粘土を素材として導入し彼らの独自な創作世界の紹介に取り組み、その影響は様々に他施設に影響を与えそれぞれ独自な発展をしています。

服部先生は指導者が作品制作に当たってどのような関わりがあったのかを研究テーマとして、これらの作品を調査されることになったのです。

残されている作品は保存状態が良くありませでした。その一枚いちまいを撮影し寸法を測り、裏面に書いてあることまでパソコンに入力する作業です。

これらは落穂寮のホームページに服部研究室へのリンクが貼ってあり、世界に発信しています。ぜひこのリンクにお立ち寄りください。

何が描いてあるのか？

絵画作品を鑑賞する場合、最初の接点は「**何が描いてあるのだろう？**」ということだと思います。

最近、海外の統合失調症の患者さんの絵を見る機会がありました。医師や臨床心理士はその絵になにを描いているか、その色使いはどうか？などからそこに表現されている内容を判断して、投薬の処方やカウンセリングを行うなどの治療方針を探るのでしょう。

実際には無いものが見えたり聞こえたりすることや、活動する意欲が低下したり、日常生活の些事が処理できなくなるため生活上の困難が起きてしまうなどの病因を推定して治療を行おうというものです。この場合患者が**何を描いているのか？**ということが問題となるわけです。

統合失調症を自称している有名な作家もいますが、その病状から表現される独特な世界を展開してることで、美術史上の位置を巡って論及されています。

どのように書かれているか？

知的障がいを持っている人たちの作品を展覧会に展示したとき、鑑賞する人たちは「**何が描かれているか？**」を作品理解の出発点にすると往々にしてその期待は裏切られます。形象として何が書いてあるのか解らないものが多いからです。なぜこんな描き方がされるのでしょう。

障がいの程度にもよるので一概に言えないのですが、作者の中には認識の発達が滞り、「**○△□のはめ板テスト**で二歳程度の発達段階では誰も区別ができないのは当たり前なのです。障がいのない人たちは心理的な発達により問題はやがて解決されることになります。しかし、その発達が停滞したままだったら恐らく全く別の認識世界が広がっていたでしょう。

ところがその作品をじっと眺めていると何となく癒され、そのあどけなさに心が休まったりするのを感じることがあります。これはすでに忘れ去っているけれども誰もが例外なく通過してきたことで、その**根源的な事は大きな力を宿しているから**ではないでしょうか。

○△□の認識ができなかった世界に接近しようとすれば、「**何が描いてあるのか？**」ではなく、「**どのように描いてあるのか？**」の観点に立つことができるなら訴えて来るものをもっと鋭敏に受容できるのではないかと思うのです。

過去の「土と色」展での作品ですが、普通の画用紙に点が全面描き込んであり、左角にスカートをはいた小さな女の子が描かれていました。この絵を描いた主人公は画面に雨の一粒ひとつぶをねじ込むように一生けんめい描き込んでいたのです。そんな少女の姿がありありと思い浮かんできて「なんといじらしい！」と感動しました。

その世界に浸るには？

統合失調症を抱える人の作品にせよ、知的障がいを持つ人たちの作品にせよ、そこに描かれている世界に浸るには描かれている全体を素直に受け止めなければなりません。これは私たちの側の課題だろうと思います。その作品が発しているものを受け取るには、作品と作品に対面しているわたしたちとの間に何も介在していない方がよく見通せるのではないかと思っています。正規の美術教育を受けている・いな、西洋美術史に立った視点、又は需要と供給の関係から生じる市場原理など、これらが眼前の「すだれ」となって遮り、作者の真剣な発信を受け止めようとする場合の障壁になっているのではないかと心配しているのです。作品理解を遠ざける「かたくなさ」は裾野の広がりが期待できないでしょう。この作品群は人間の在り方を問っているということが理解されればもっと多くの人々に受け入れられ理解が深まるのではないかと思っています。

（二〇一九・九・一五）

問いかけるまなざし

寮長　太田正則

三年連続して自然災害が発生しました。同じ時期に同じような豪雨災害により、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの皆様にお見舞い申し上げます。近年、自然が猛威を振るい災害につながることが多くあり、地球温暖化が原因と言われています。高度経済成長期に多くの物理的・人的資源を使い、環境を破壊し、一通りの豊かさを手にした後、これではいけないと振り返っては見たものの、昔のような生活に戻ることは難しいものです。ほかの国が同じ道をたどっていても、豊かさを求めることまで否定できず、進められる開発を止めるだけの説得力はありません。このままではいずれ地球の生活環境が取り返しのつかないことになってしまうのではないかという不安は持ちつつ、五十年先百年先のことを考えて、経済が停滞することを受け入れるだけの心の豊かさは、現実に大切な何かを失う事でしか取り戻せないのかもしれないと考えていた矢先に、私たちの生活様式を大きく変える出来事が起きました。経済が停滞し、今なお大切な多くの命が奪われています。グローバル化が進んだことにより一気に加速した感染拡大の意味するところは、失われていた大切なものを思い出させるきっかけなのかもしれません。

さて、そのグローバル化からは遠いところにいる当寮の利用者さんへの支援について、当法人では次のような理念を掲げています。

「明日の笑顔につながる支援」

これが当法人のキャッチフレーズです。私たちのような福祉職場に従事する人のモチベーション（この仕事をしていて良かったなあと思うこと）は、利用者さんに喜んでいただけた時の笑顔が見られた時です。「ありがとう」の一言で疲れが吹っ飛び、笑顔で癒されるのです。ただ、当寮の利用者さんはほとんどの方が言葉を持たないため、私たちの支援が適切かどうかを知ることができるのは笑顔が見られるかどうかしかありません。職員は、日々の生活の中でその笑顔が見られるために環境を整え、支援の方向性を探り、内容を考えて支援しています。その時に陥りやすいのが、手っ取り早くその笑顔を手に入れようとすることです。それは、利用者さんが喜ぶことを次々と提供すればいいのです。先のことを考えず、今だけのことを考えて支援すればいいからです。しかし、その支援は未来の利用者像を描いたものではないため、五年後、十年後には全く笑顔が見られなくなっているということも考えられるのです。つまり、私たちは、今だけ笑顔が見られればいいのではなく、明日も笑顔が見られるためには、今どのような支援が良いのかを考えて関わることが必要だということです。

次にお話することは、この仕事の魅力です。人が自分以外の人と関わる時、そこには必ず相手の心の内や言葉の裏側を読み取ろうとする機能が働きます。相手の思いに答えたい、嫌われたくない、騙されたくない、悲しみたくない、傷つきたくないなどの感情が働くからです。しかし、彼ら（利用者）と一緒にいると、「自分はなぜそのような思考をするのか」という、相手ではなく、自分の心のうちに問いかけることが多くなるのです。何も語らない口の代わりに何かを問いかける眼差しに、心の中を見透かされているのを感じ、自分の気持ちに正直にならざるを得ない瞬間を味わうのです。無駄な物が削ぎ落とされていくと、そこに残るものは本当に大切なもの、必要なものだけなのです。その繰り返しが自分を成長させてくれるのです。私の場合はちょっとずつですが（笑）。裏表がなく、ただ純粋に真正面からぶつかってくるものに晒され続けることでおのずと自己覚知できるのです。生かされていることの原点がここにあります。「自分を高めることのできる職業ですよ」と伝えています。

さて、現代社会において、私たちに本当に必要なものとは何でしょうか？人生を歩む中で多くのできごとに触れ、感情を揺さぶられ、体験し、学習してきたことでこびりついたプラークによって、今だけしか見えない心になってはいないでしょうか。彼らは、この社会を未来につなげるための道しるべとして、常に私たちに視線を投げかけています。それに気づくか否かは、心の豊かさではないでしょうか。糸賀先生の

「この子らを世の光に」

は、今まさに多くの人に伝えるべき言葉なのかもしれません。

（二〇二〇・七・一五）

お花見ランチ

新型コロナウィルス流行の影響で、今年は外部への遠足は取りやめにし、寮内でお花見をすることにしました。

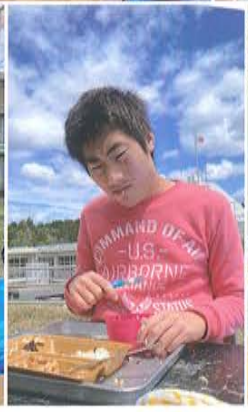
寮内には桜の木がたくさんあり、毎年きれいに花を咲かせますが今まではあまり寮内の桜を堪能することはありませんでした。

ただ、今年に限っては暗い自粛生活の中、寮内の桜で季節を感じる事ができ、満開の桜を見ながらお花見ランチを楽しみ、東の間のリフレッシュになりました。

男子棟

女子棟

通所



入所 新人紹介

皆様はじめまして。

昨年十一月から，女子棟で生活支援員として働かせて頂いています、**西堀恵美**と申します。

二十年程前に障害者施設で生活支援員として働いていた事があるのですが、家庭の事情により退職しました。その後接客業をしていたのですが、今後の人生を考える出来事があり、転職を考えていた所、落穂寮を紹介して頂きました。

以前の施設の利用者さんは軽度でしたので、正直入職させて頂いて大丈夫か不安でした。しかし、福祉業界を退職し心残りな思いがあった事を思い出し、これを機に再度福祉業界で色々学びたいと思い、お世話になる事になりました。

入職して十ヶ月程過ぎましたが、利用者の方とコミュニケーションを図れる様になってきたかなと思います。先輩方に助けて頂き充実した日々を送らせて頂いております。一日でも早く先輩方の支援に追いつける様に、又利用者の方に寄り添い安心して頂ける支援ができる様精進してまいります。

今後も沢山ご迷惑をお掛けすると思いますが、一生懸命頑張りますので、宜しくお願い致します。

△西堀 st と夏美さん

今年の四月から男子棟で働かせて頂くことになりました、**窪田一平**です。

前職は、タイヤを製造している工場で働いていました。タイヤの事に関しては、詳しいので分からないことがあれば、聞いてください。

僕が、落穂寮に就職しようと思ったのは、「人との関わりを持つ仕事がしたい」と思い、僕の母、姉が介護士の仕事をしており、いろいろと話を聞いていました。介護とは違いますが、「関わりを持ちたい」という事で知的障害のことに興味を持ち、落穂寮への就職を決めました。ゼロからのスタートですが、優しい先輩職員の指導の元、利用者さんの支えになれるよう笑顔で頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

△亮さんと窪田 st

居宅相談

はじめまして、**猪飼立子**と申します。現在相談支援専門員をめざし、学ぶ日々を過ごしています。

福祉の道を志すスタートは、児童支援の仕事に興味をもったことでした。学ぶうちに地域福祉に魅力を感じ、三十年近く地域福祉の仕事をさせていただいた日々は、多くの方からの学びの日々でした。

改めて障害のある方の相談の仕事に就けたら、と思っていたところ、縁あって落穂寮に出会いました。計画相談の中でも児童の方、そのご家族の方とお出会いする機会が多い仕事に、改めて一からのスタートだなと、感慨深いものがあります。また、たくさんの方とお出会いし、人生の一時期を共に歩ませていただけることを楽しみにしています。

△猪飼 st

五月より落穂寮の居宅介護事業所でお世話になっている**春日麻由美**です。以前は高齢者施設で働いていました。自立支援関係も経験してみたいと思い、未経験ながらも入職させて頂きました。

最初は利用者様の特性を把握出来ていない事で配慮に欠けるところがあり、利用者様が不安を感じた際の表現の仕方に戸惑うことも沢山ありました。その中で、もっとこの方について知りたい、上手くコミュニケーションを図りたいと思う日々が続いています。まだまだ勉強不足で、知識も浅いですが先輩方の指導とフォローのおかげで、少しずつ利用者様も安心して過ごしてもらえる様になりました。根気強く頑張りますので今後とも宜しくお願い致します。

△春日 st

コロナ禍における〝今〟

男子棟

今年度は、新型コロナウイルスの流行で、未知のウィルスから利用者さんの健康を守るため、昨年度まで、落穂寮の行事として続けてきた、『氏神祭』、『開寮記念日』等が中止となり、利用者さんと共に楽しく取り組む事が出来ず残念でした。

もちろん行事だけでなく、日々の午前歩行や午後の活動も、滋賀県での感染者数が増減する中、寮外に出掛ける事、利用者さんが自宅に帰省する事が制限され、当初は落ち着かない様子の利用者さんも多く見られましたが、七月上旬頃から、棟内で利用者さんと職員が、落ち着いた環境で向き合う事で、利用者さんの笑顔も多く見られるようになったと思います。

また、滋賀県のコロナ対応ステージが注意になった際には、十分な感染症対策を講じた上で誕生日を迎える利用者さんと一緒に美味しいケーキを購入しに行く事も出来ました。

まだまだ先の見通しに不安を感じますが、男子棟職員全員が、少しでも楽しく、安心して利用者さんに毎日を過ごして頂けるように、日々の生活の中で小さな喜びや楽しみを感じていただけるよう支援させて頂いています。

居宅介護

落穂寮居宅介護事業は、甲賀モデルとして長年行われている支援方法として、当事業所では敷地内にある建物を拠点として、日常生活の見守りや余暇活動支援を提供しています。

本来であれば、利用者さんが希望される買い物や外出などの支援も可能な範囲で支援させていただいていますが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、基本的には感染の可能性が低い密にならないところで、音楽を聴いたり、DVD観賞をしたり、近辺を散歩したりといった形で過ごして頂いております。怪我やトラブルの回避はもちろん、こまめな消毒や検温・手洗いを徹底して、衛生面にも配慮してケアを行っています。

利用者さんの特性から、居宅介護事業の支援内容は、主に余暇活動支援の提供で、利用者さんの想いを聞き取り、その要望に応える事が私たちの支援となるのですが、当事業所ではそこに自立支援や発達支援の視点も持って支援に携わる事が出来ればと考えておりますので、職員間やご家族との相談をもって、創意工夫をしながらニーズに合った支援を提供しようと心がけております。

また、職員自身も利用者さんへの支援の在り方や方法などについて定期的に会議を持ち、お互いの意見を交わすなど、より良い支援ができるようにと努めておりますので、皆様からご意見等ありましたらお聞かせください。

女子棟

新型コロナウイルス感染対策中の女子棟では、消毒清掃の徹底や棟内での食事提供（男子棟と分離）を行っています。感染対応当初は、棟内食事がいつまでも続いている事に戸惑う利用者さんもいましたが、現在は棟内食事も慣れ、普段と変わらない落ち着いた生活を送る事が出来ています。

しかし、利用者さんの楽しみである外出や全体行事が実施出来ません。そんな窮屈な思いをしている利用者さんの為にも女子棟は、全体行事を女子棟だけで行えるよう規模を縮小し、花見や飯盒炊爨を実施しました。利用者さんが楽しんで頂けるよう、この先の行事も考えていきたいと思います。

また通常の日課活動も男女別で行っている為、十分な日課活動の保障も課題となっています。ある日の活動内容は落穂寮にコロナが流行らない事と疫病退散を願って、みんなでアマビエさんの造形を行い、思い思いに色を塗って楽しく取組みました。

もう暫く、利用者さんには窮屈な思いをさせてしまうと思いますが、楽しい日々が過ごせるよう、職員共々、試行錯誤しながら支援を行っていきたいと思います。

相談支援

落穂寮相談支援事業所も、今年度で七年目を迎えました。最初は一人で始めた相談支援専門員も、利用者様の増加に伴い一人二人と増員し、今年度からは兼務も含めて四人体制を取り、今までの相談支援の質が落ちないようにしていきます。

今年度、新型コロナウイルス感染症関係で、これまで普通に行えていた相談支援活動を、同じように続ける事が難しくなっています。お家に訪問し、対面でお話を伺っていたのが、流行状況に合わせ、電話でのやりとりやメールでのやりとりに変えたりと大きく変化が求められた数か月でした。これまで当たり前に行えていた対面での活動の大切さを改めて実感しています。またコロナ以外にも悩みは尽きず、相談支援専門員が必要な意味や求められる役割と実際との違いの間で、指定特定相談や指定障害児相談をこれからどのように行うのが良いのか、相談員皆で考え続ける日々です。

とはいえ、当相談支援事業所も過渡期に差し掛かり、新型コロナだけが、悪者というものでもありません。これまでの支援を振り返り、今後の支援に繋げて行けるよう、皆様のお力をお貸し頂けると、有難く、また心強く思います。

先が見えない状況ではありますが、聞き取りでお会いできるようになった際には、色々なお話が出来ることを楽しみにしています。これからも宜しくお願い致します。

永年勤続表彰

20年・10年・5年表彰

コロナ対応として、初めて屋外での表彰式。今までの感謝を込めて、表彰状と記念品が授与されました。

松山st勤10年

川原st勤10年

植西st勤10年

加藤st勤5年

松尾st勤20年

中辻st勤5年

下保st勤5年

岡田st勤5年

ご協力ありがとうございます

令和２年９月末現在

社会福祉法人椎の木会及び落穂寮の運営にご協力いただいた方に、この場を借りて御礼申し上げます。

今後も変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

〈寄付金〉
シガ技研

〈物品の寄付〉
黄之瀬節子
河本文教福祉振興会
原田　隆和
平岩美智子

（敬称略）

ありがとうございました。

泉

久々の発行となりました「おちほ」、今回からリニューアルということでカラーとなりました。利用者の皆さんの様子をしっかりとお伝えできるよう、頑張っていきたいと思います。

さて、皆さんご存知のように新型コロナウィルスの流行によりあらゆる場面で自粛が求められている昨今、落穂寮もまた例外ではありません。利用者さんが楽しみにしている行事も中止や規模の縮小が相次ぎ、寮外へのお出かけも帰省もできなくなってしまいました。利用者さんの感じるストレスを解消できないまでも代わりの楽しみを提供できないか職員も手探り状態です。一方、職員自身も寮内にウィルスを持ち込まないために仕事外での行動の自粛を行い、利用者さん程ではありませんが行動を制限される日が続いています。この先どうなるのか見通しはまだつきませんが、まずは無事にこの事態が終息するまで、落穂寮に関わる人が皆無事に過ごせるように出来る限りの事をしていきます。

「命あっての物種」
「生きてるだけで丸儲け」
「死んで花実が咲くものか」
皆さんもくれぐれもお気を付けて。

木言（こと）

暑いのは誰のせい？
人のせい？たまたま？
みんなのせい？
いち部の人？
あなたは？
私はただただ立っているだけ